

患者家族の子どもたちの 「つながり」を作りたい。

中学3年生の春、母ががんを患った。
その前年に祖母を亡くして、喪失感を引きずっていたときだった。

見えない敵に恐怖と不安を感じた。周りには母ががんであることを打ち明けられず、
助けを求めることができずにひとりで悩み苦しんだ。
このときの心の傷も一つの要因となって、その後通っていた高校を辞めた。

この経験をもとに、僕は2019年から自分と同じ立場にいる子たちへのサポート活動を始めた。
それが「親ががん患者・がん経験者の子どもたち」のあつまりの開催だ。
まだ社会にサポートがない現状を、ひとりのがん患者の家族として、変えたかった。

「日常につながりを感じられる人のつながり、コミュニティと居場所をどう作る？」
「孤立してる子たちをどうつなぐのか？」「正確な情報の提供はどうしたらいい？」
「心理面への支援は？」「親を亡くした子へのサポートはどうする？」
「生活する地域の中で、どう支援する？」
「いろいろなケースに置かれた子たちを、誰1人取りこぼさない大きな器をどう作る？」…。

課題に感じたことは、たくさんあった。
がんという病気と向き合うことは、幸せとは、生きるとは、死とは何かを考えることだった。
親ががんを患っている子どもたちは、大変な思いをしつつも一生懸命に「いま」を生きていた。
僕は活動の中で無力さと専門性の必要を感じ、活動の発展のために新たなステージを探した。

現代福祉学部の環境は、僕の学びたいことに、これ以上ないくらいマッチしていた。
教員の方々も、僕の熱意とやりたいことに真剣に耳を傾けてくれた。
そしていま、同じ入試で入った仲間と出会い、社会福祉とコミュニティ、心理といった
それぞれ領域の入り口に立ち、今後の活動と将来にわくわくしている自分がある。

ここでは、いままで溜め込んできた自分の思いを、カタチあるものに変えられる。
持っているエネルギーを、力に変えられる。

僕たちは、これからの社会をともに描く仲間を、待っている。

法政大学 現代福祉学部 まちづくりチャレンジ入試 2021年度

法政大学現代福祉学部「まちづくりチャレンジ入試」に興味のある方は、
以下のウェブサイトもご覧ください。
現代福祉学部で学びたい方へ

<https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/jukensei/>

作成：法政大学 現代福祉学部
福祉コミュニティ学科 1年 M.H